

研究課題名	機械学習を用いた胸郭出口症候群における診断補助ソフトウェアの開発
研究責任者名	広島大学大学院医系科学研究科放射線診断学 教授 栗井和夫
研究期間	実施許可日 ～ 2028年3月31日
対象者	2011年4月から2026年3月の間に、広島大学病院にて胸郭出口症候群として造影CT検査を行った患者さん
意義・目的	胸郭出口症候群の診断基準の一つとして用いられている指標に、鎖骨と第一肋骨の最短距離(肋鎖腔)を測る方法があります。しかし、この方法は明確な閾値が無く診断に苦慮することも多いです。本研究は胸郭出口症候群の診断補助を目的に、画像の入力のみで診断を補助する指標が自動計測され、その計測結果を用いて統計解析による診断補助プログラムの開発を行うことです。
方法	本研究は、診療録(カルテ)情報を調査して行います。 カルテから使用する内容は身長、体重、性別、年齢、臨床診断、CTの画像データです。 取得した情報は、氏名・住所・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく研究用の符号をつけ、どなたのものか分からないようにして研究に用います。
共同研究機関	ありません
試料・情報の管理責任者	広島大学大学院医系科学研究科放射線診断学 教授 栗井和夫
個人情報の保護について	調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されていた場合には、提供していただいた情報に基づくデータを結果から取り除くことができない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人を識別できる情報は含まれません。
問合せ・苦情等の窓口	〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3 Tel : 082-257-2995 広島大学病院 診療支援部 画像診断部門 診療放射線技師 横町 和志